

すべての女性が輝く明日のために

JAUW会報



一般社団法人
大学女性協会

第271号
2020年11月



コロナ対策をして開会を待つ会場

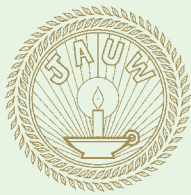


パネルディスカッション

特集 公開シンポジウム・リモート化への試行

公開シンポジウム……………	2~3	全国支部長オンライン勉強会について……………	7
コロナ禍のなかの委員会活動……………	4~5	「コロナ禍の JAUW 会員の皆様へ」……………	8
ヒューマン・ストーリー第6回 ……………	6	委員会からのお知らせと報告、理事会から、 「GWI、リモートで甦る結束力」、 70周年記念募金報告、新入会員	

阿部幸子元会長



2020年度 一般社団法人 大学女性協会 公開シンポジウム

教育・ジェンダー・共生

—コロナ禍を契機にみえてきた教育の本質—



日時：2020年10月18日（日）13：30－16：30
会場：TIME SHARING 四谷 B, オンライン併用

コロナ禍の意味と教育の本質をみつめて

企画委員長 城倉 純子

この度の公開シンポジウムにご参加頂きましてありがとうございました。コロナ禍の中、ご案内や呼び掛けにご協力下さいました皆様に、厚く御礼を申し上げます。おかげさまで会場とオンライン参加の約100名をお迎えすることができました。

新役員交代の年度でもあり、企画会議は6月初めのスタートになり、コロナ禍による「自粛」の真只中、細心の注意を払いながら対面とオンライン配信との併用で進めました。

私たちにとって初めての経験であり、あまりにも唐突に感じられた「全国一斉休校措置」の混乱は、そこかしこに溢れていました。この体験や思いを無駄にすまいとの思いがどの委員にもあり、テーマ「教育・ジェンダー・共生」の中の「教育」に焦点をあて、コロナ禍の教育現場への影響を見つめることに目的を絞ることに決めました。

一方、基調講演はコロナ禍が私たちに投げかけた意味を探る内容でありたいとの思いから、「いのち」の大切さや生きものとしての人間と自然との共生を説かれてきたJT生

命誌研究館名誉館長の中村桂子先生にお願いすることにしました。38億年の歴史が書かれたゲノム解析から始まるお話は、私たちの期待に十分に答えて下さるものでした。第二部のパネルディスカッションは講演の発題を受け、「教育」を通して現場を見つめた3名のパネリストの方々に思いを語って頂きました。内容の詳細は報告書をお待ちください。



最後に、当協会の趣旨の3本柱にある「国際平和」にコミットし注目すべき発言をされている国連事務次長軍縮担当上級代表の中満泉様からのビデオ・メッセージを流しました。平和への思いと内外の女性に送るメッセージは、耳を傾ける私たちに生きる強さを吹き込んでくれるものでした。これらの成果を次年度のセミナーに繋げていきます。

「コロナ禍における現況調査（アンケート）」中間報告

企画委員会 嶋田 君枝

会員のみなさまには、夏に実施した「コロナ禍の『今』を捉える」趣旨のアンケートにご協力をいただき、ありがとうございました。

なかなか興味深い結果が集まりましたが、新型コロナウイルスの流行は当分収束しそうもありません。そのため、この結果をすぐに分析するのではなく、これからも『今』を捉え続け、状況を比較分析していくことで「after コロナ」時代の「よりよい教育」への指針を示すことができれば、と考えております。

そこで、あと1～2回、同様の趣旨のアンケートを実施し、来年のセミナーに繋げる予定でおります。その際には、再度のご協力を心よりお願いする次第です。

また、今回、はじめてインターネットからの回答（google フォーム利用）を用意した結果、78.6%の方がご利用くださいました。手軽に回答できると、好評だったため、今後は、大変有効な手段として、活用する予定です。

	小学生	中学生	大学生	保護者	観察者	全体
郵送	10	8	5	14	30	67
google フォーム	21	19	106	38	62	246
合計	31	27	111	52	92	313

プログラム

13：30 開会 総合司会 森川 淳子
会長挨拶 加納 孝代

13：40 第一部 基調講演 中村 桂子氏

〈休憩・質問用紙回収〉

14：35 基調講演に関する質問への回答

14：40 第二部 パネルディスカッション
コーディネーター 城倉 純子
パネリスト 中野 真依氏
本多 さくら氏
中道 貞子会員
コメンテーター 中村 桂子氏
16：15 ビデオメッセージ 中満 泉氏
16：30 閉会

基調講演 JT 生命誌研究館 名誉館長 中村桂子氏

人間は生きものという原点

—新型コロナウイルスのパンデミックの中で—



新型コロナウイルスによるパンデミックの中で、私たちが生きものであり、自然の一部であることの再確認が必要になっています。

現代社会は利便性を求めている科学技術開発と、金銭的豊かさを求めている金融資本主義で動いています。これは機械論的世界観です。

人間は生きものとする時、生物学が示す点を指摘します。まず多様性。同時に細胞という共通性をもつ38億年の歴史の共有。人間はヒトとしてその中にあるので、生きものへの視線は常に「上から」ではなく「中から」なのです。生きものとしての視点を欠く現代社会は、自然破壊をしています。その自然には「内なる自然」つまり私たち自身も入っています。具体的には時間と関係を切り、体と心を壊しています。機械論を離れ生命論的世界観に転換し、生きやすい社会をつくりたいと考えます。

機械論の中では遺伝子決定論がはびこっていますが、遺伝子はダイナミックに動いており、ウイルスはまさに遺伝子がタンパク質の殻を着て生物の間を動きまわっている姿です。この存在を前提にすると、一人一人が手を洗うという日常の行為で、人類が生存し続けることを支えるのです。個と全体をつなげる具体的な行為として手洗いという日常が浮かび上がったことで、生きものとしての生き方が見えてきたことに意味を見出します。

金融資本主義とそれを支える科学技術での利便性をよしとし、格差を作っている現在の社会を生きやすいものに転換するには、学問で見えてくる密画世界と日常の略画世界を重ね合わせて考えることが不可欠です。「密画と略画の重ね描き」の重要性を指摘します。

生命論的世界観を持つ人を育てるには、やはり自然との接触が大事で、喜多市小学校での農学科は成功例と思っています。

AIが開発され人間を超えと言われるそうですが、AIは論理、統計、確率の世界。人間は情感があります。中で「愛づる」(Philia)という気持ちは生きものとして生きる時の基本であり、子どもたちに伝えたいものです。

※報告書は例年通り年度内に作成します。

パネリストから

中野 真依氏

神奈川県川崎市立川崎南高等学校 教諭

中村桂子先生の「『このままじゃダメだぜ』とコロナが問いかけている」という言葉が、まさに日本中の学校現場がそれぞれの困難に立ち向かっている状況を表しています。今こそ、教員と生徒・保護者、そして教員同士の連携が教育と学びを進化させる時なのだと強く感じました。



本多 さくら氏

静岡県富士市のママさんサークル「ふじママサロン」

今よりも女性が生きづらかった時代に、学び、働き、子育てをしてきた方々のたくさんの足跡が私たちの現在歩む道となっていると感じました。次の世代に向けて、自分自身に何ができるだろうか。「考えること」から逃げずに、今こそ前に進もう！と勇気をもらいました。



中道 貞子会員

奈良支部長、元奈良女子大学附属中等教育学校副校長

コロナウイルスやヒトを扇形の生命誌絵巻の中に位置づけて紹介された中村先生。もがきながらも、前向きで自然体で元気いっばいの活動報告をされた若い先生と働くお母さん。政治家やお役人のおじさん達の言葉や行動が色あせてしまう素敵な女性達との出会いでした。



ジェンダー平等と平和についてのメッセージ (抜粋)

国連事務次長軍縮担当上級代表 中満 泉氏

本年は北京会議25周年など重要な年である。ジェンダー平等達成のためにどの分野で努力を加速していくべきか見極める必要がある。コロナ危機で今までの成果が逆戻りする可能性がある。何千年も続いた家父長制がすべての人々にどれほどの悪影響を与えてきたかコロナ危機が物語っている。再建の機会とし進むべく、共にジェンダー平等、平和、軍縮にむけて取り組んでいくことを、国連を代表して約束する。

コロナ禍のなかの委員会活動

広報委員会では、コロナ禍における各委員会の活動の様子をご紹介します企画を立てました。寄せられた報告からは、従来の活動が大きく制限される中、行事の中止に踏みきらざるをえなかったり、苦心の方法で課題に取り組まれている状況が伝わってきました。委員会は個々の会員が広範囲の会員と交流を深め、JAUWの存在意義を考える場でもあります。以下の報告が、会員の皆様の関心を高め、今後の委員会活動により一層のご協力をいただく上での契機となれば幸いです。

調査・研究委員会

勝又幸子委員長

全国から25名の参加者を得て2020年度から21年度の第2期委員会活動が始まりました。委員の皆さんとはグーグルグループでメール連絡をとりながらも、コロナ禍で対面の会を開くことができませんでした。6月になって、オンラインの会議を想定してJitsi-meetとZoomのお試しを委員対象に行いました。その後ネットアンケートで最も参加しやすい曜日を把握し、土曜日午前中に委員会を7月（15名参加）と9月（14名参加）に2回開催しました。去年全国セミナーで中間報告をした「外国にルーツのある住民と多文化共生の取組についての調査」の最終報告書の完成のため、オンライン会議を全5回実施し、2月末目途に公表を予定しています。

科学研究奨励委員会

菅原洋子委員長

本年2月に第22回（2019年度）守田科学研究奨励賞の選考を行い、会長に受賞候補者2名の推薦をさせていただきましたが、この辺りから新型コロナウイルス感染拡大が深刻なものとなりました。受賞が決まられたお二人とは、4月にZoomにてお話をさせていただきました。委員会でメール審議を行い、6月に予定されていた贈呈式は中止の判断となりました。受賞講演は1年繰り延べとし、受賞者の研究業績をweb掲載させていただきました。このような中ですが、第23回守田科学研究奨励賞の受賞候補者の募集を例年通り9月から開始しております。

国内奨学委員会

田中紀子委員長

新任委員2名（奥坊光子委員、蓮見元子委員）を加え、新委員長、庶務（前委員長）、選考長（元委員長、前担当理事）を含む16名体制で、「コロナ禍こそ奨学金事業により学生を支援する」ことを第1回委員会決定。募集期間（6/13～8/31）応募総数58（社会福祉3、安井医学7、支部推薦一般文系7、同理系23、非推薦18）。10月5日現在各委員による選考作業進行中、第2回国内奨学委員会第1部選考委員会にて、2020年奨学生案を委員会として決定する。第2部委員会にて2020奨学生によるスピーチ開催、もっとも質問が多かった募集要項に関する応募要件記載法について改変の可否等論議予定。

国際奨学委員会

香川せつ子委員長

国際奨学事業は、コロナ・パンデミックの影響を強く受け、2020年度、2021年度と2年連続で奨学生募集の中止を余儀なくされました。とくに2020年度事業では、すでに応募受付を完了して選考に入る直前の中止となり、多数の応募者に個別に連絡する事態となりました。3月に予定されていた2019年度の留学生報告会が中止となったのは、非常に残念なことでした。国際奨学募集については、外国からのメールでの問い合わせが多くあり、今後の国際奨学事業の展開について、Zoom会議等により委員会で意見交換をしていきたいと思っています。

社会福祉委員会

遠藤理枝委員長

コロナ禍により昨年度（2月）から対面での委員会の開催が出来ておらず、メール会議を実施していましたが、委員会の活動予定の計画も十分に検討することが出来ずにいます。今年度は奨学生の募集と選考のみの活動になるのか、あるいは全国的に行動を制限されていた時期での応募のため、学生の行動も困難を極め、応募者が出ないのではと危惧をしていました。幸い少数ですが応募者があり、少しでも学生の応援ができるよう選考に心を砕きたいと思っています。今後は、リモートでの委員会の開催や活動をも視野に入れて、新たな展開を探りたいと思っています。

文化交流委員会

建部静代委員長

「with コロナの現状を踏まえた留学生との文化交流について考える」を課題に6月、7月は対面（参加自由）にて、9月は各自リモートワークをした。参加率50%ではあったが、各委員からの貴重な意見を共有することができた。10月から留学生の入国が全面解禁になったものの、大学の授業のオンライン化や集合の制限などwith コロナの意識と行動を身につけなければ、何事もすすめることができない。反面それは、新たなスタイルを生み出す機会でもある。一定のルールを守りつつ、これまでの文化交流の視点を少し変えることによって、「新たなモデル」を創ることに取り組み、関係先へのヒアリングも含め1回の実施を目標としている。

国際ネットワーク委員会**牧島悠美子委員長**

当委員会は多くの支部から委員が参集し、活動している。主なものにGWI（旧IFUW）アップデートの翻訳があり、隔週で発行されているメールマガジンの翻訳を担当している委員も多い。穂田委員が確認し、HPに掲載している。メールでのやり取りを日常的に実施しているため、委員会として話し合いが必要な場合もメール会議という形で実施している。ただ例年総会時においている旧VGIF（Women First）の寄付を、会員が集まる機会にお願いすることにしたが、その機会が非常に限られ、シンポジウムの会場などでもお願いせざるを得なかったが、ご協力に感謝したい。

会員委員会**西田節子委員長**

会員委員会は支部と連絡を取りながら会員異動状況を把握し、名簿、カード、パソコンで管理しています。コロナ禍のため事務所でやっている月毎の定例委員会は3月から8月まで中止にしましたので作業が滞りがちとなり、会員異動のあった支部にはご迷惑をお掛けしましたが、事務職員の方々のご協力もあり、何とか理事会への報告を続けることができました。

10月4日現在24支部（函館支部は6月以降休会）会員数710名です。また傘寿、米寿、卒寿、百歳、92歳以上の方々には、担当委員がお祝いカードをお送りしています。

広報委員会**穂田信子委員長**

7月28日刊の今年度初の会報制作にあたって委員が事務所に集まったのは発行当日のみ。5月半ば以降、オンライン会議、電話、委員会メールのやりとりで纏めて行きました。今回、同じ経過を再び辿っていますが、対面会議で得られる情報の量と質の豊かさに気づかされる日々です。

HP運営委員会担当：梅田和子

現HPは2014年度に見直しを行いました。6年経過し、コロナ禍の中、リニューアルHPについてZoom会議で検討中です。若い方にもJAUWを理解していただけるよう、スマホ対応を含め、新機能を追加、制作中で12月公開予定です。

親睦事業委員会**植松ちどり委員長**

親睦委員会の今年の活動は、来年1月9日に予定されていましたが、新春の集いでしたが、この新型コロナ禍の今後の予想がつかない上、ホテルのキャンセル料が半年前から発生する事が分かり、6月末にホテルと協議し、また理事、委員会と相談の上7月5日にキャンセルいたしました。来年度は、新たに検討の上、改めて予約する事になりました。

収益事業委員会**松崎和子委員長**

4・5・6月の委員会は中止し、各月、会計報告と観劇会開催・イベント中止などを書面で報告した。7・9・10月（8月は夏休み）は事務所で委員会を開いた。

5月の文楽と狂言、7月の能楽の公演は行われたが、それ以降の観劇会、バザー、イベントは全て中止となった。「購入者」や「参加者」不在での収益事業は困難である。

しかしながら、全国の皆様の協力による斡旋手数料（丸大ハム）や広告料（楽天アフィリエイト）収入、寄付金、仕入品や寄贈品の事務所販売による収入を積み重ねている。また、11・12・1（'21）月には観劇会を企画。昨年度の純益642,282円の実績には未だ程遠いが活路は開いている。

文化事業委員会**鷺見八重子委員長**

2020年度はオリンピック・パラリンピックのため恒例の初夏の事業は割愛し、秋のコンサート1回だけにしようとしたのは年の初めのことである。まだコロナ禍蔓延の兆しはなく、思えば先見の明ありであった。だが実施を決める4月は緊急事態宣言の真っ只中。キャンセルも覚悟のうえで天満敦子さんと交渉、会場は運よくコロナ対策万全のハクジュホールがとれた。公演がすべてキャンセルになったという天満さんの熱意におされてチラシを作成しながらも半信半疑であったが、チケットは9月発売1か月で150席完売。文化の力を実感しご支援に感謝している。

生涯学習委員会**渡部由紀子委員長**

生涯学習委員会は発足3年目となる今年度、委員13名で7月より活動を開始しました。3月よりコロナ禍で活動が中断となったため、第1回委員会は対面式で開催しましたが、第2回委員会よりZoomで開催しています。昨年度に検討、準備がなされていた事業を、コロナ禍を経験した目で見直して、順次実施につなげるべく委員会の力を結集して進めているところです。まずは、コロナ禍により延期となったJカフェ第8回を、初のZoom併用型で11月に開催する運びとなりました。コロナ第三波がきても活動を継続できることを目指しています。



JAUW
74



2017年度に監事を退任なさるまでの10年余にわたり、JAUW 理事会で、特に法人改革の重責を果たされた阿部幸子様は、秋も深まる10月中旬、ご自宅に近い西荻窪の国連ウィメン日本協会東京事務所でお話を伺いました。

● どういう環境でお育ちになったのですか？

両親と姉との4人家族、戦争の中でいろいろなことがあり、父は終戦の年、私が小学校6年の秋に病死し、母が働きながら戦後の困難な中を育ててくれました。小学校の高学年は長く学校に行かれなかった時もあり、女学校は青空教室でまともな授業が受けられず、勉強をしてこなかった…というトラウマが今も残っています。大学受験の時に結核を発症、試験には通ったが直ちに休学の手続きをとり、2年間療養生活を送った。その時、沢山の本を読み、療養所では多くの仲間たちと出会い、人生を見つめる機会となった。これが私の人生における大きな転換点になった。

● 入会のきっかけは？いつ、どなたのご紹介でしたか？

入会は多分1996年。北京会議（1995年）の後だったと思うが、所属していた学会の会長代理として文部省主催の女性団体の会合に出席、隣席の大学婦人協会副会長（佐藤宏子さん）からセミナー報告書（多分1994年度のセミナー報告書「高等教育と女性」のテーマ）などの資料を見せていただき、もっと情報を得たいと思った。同僚の現会長、加納孝代さんと一緒に自発的に入会してみることに。

● その当時、JAUW をどう見ていらっしゃいましたか？

教育関係の仕事に従事していて、女子の高等教育にかかわりがあったから、何か関係がありそうに思えた。出身校は新制大学の出発の時、大学婦人協会に大変お世話になり、母校の教授が当時JAUWの理事をされていたことなどは後に知ったことです。

入会したことが山中照子副会長（丸山会長）の目に留まり、国外奨学委員会（国際奨学委員会）の委員を務めることになった。当時の委員長は井上章子さん。年2回程度のお仕事だったので、活動を続けることができた。その頃はワープロの時代だったのだろうか、時間がなかったので夜中に文書作成をして、事務的な仕事のお手伝いをしていた。だから、その他の活動については知る機会がなかった。

● 思い出に残る出来事は？

国際奨学生の募集はIFUWの加盟国が対象だったから、お蔭でIFUWに目を向けることができた。

退職した年に国際奨学委員会の委員長に就き、理事会に出席するようになり、沢山のことを学んだ。理事2期目に田中正子会長の下で副会長を仰せつかり、2006年度に創立60周年を記念して「IFUW・JAUW 関係資料集」を刊行したが、副会長としてこの編集委員会に加わり、国庫補助事業の報告書全冊に目を通す機会を与えられた。俄か勉強だったが、50年史と合わせてこのセミナー報告を読破する機会を得たことは、その後に関わるようになった法人改革の仕事に大変役立った。この時のことが強く記憶に残っている。

● 法人改革に対してJAUWは、どう臨んだのですか？

法人改革は国是で、必ず旧民法法人から新しい法律で定められた公益法人か一般法人に変わらなければならなかった。公益法人としての申請を目指し、田中正子会長の下で公益法人認定申請準備のための特別委員会が作られた。しかし、公益法人になるためには公益と認定される事業が1/2以上なければならないこと、JAUWは支部あつての本部なので本部だけが公益認定を受けることはできないこと、その上当時は基本財産など固定資産化された財産はあつても活動費に使えるお金がなかったことなど、多くの問題を抱えていた。第1次特別委員会では、公益法人に向けた課題を盛り込んだ報告書を提出、それに引きづく第2次特別委員会では海老根静江副会長が委員長となられ、ご一緒に検討を重ねた。そして公益ではなく新たに定められた一般社団（一般と公益の間にあり中2階と呼ばれていた）になることが適当との判断が下された。問題は多岐にわたっていたから、海老根委員長も副委員長の私も、委員の方々も、納得できる法人化を考え続け、最も苦勞した時期だったと思う。青木怜子会長の下で2回目の副会長を仰せつかり、第3次特別委員会ではただひたすらに申請書の作成に取り組み、7月に移行認可申請書を出し終えた直後にはPCが炎上して使えなくなったが、それほど仕事をしていただと思う。一回でパスしたわけではなく、第4事業の手直しをして再提出し、10月のセミナーの時に担当官から会場のエックにまで、申請が通ったとのご連絡を頂いたことは、最もうれしい出来事だった。あの時の感激は今も忘れられない。

● 一社化を振り返って今のお気持ちは？

今、法人としての活動ができてるのは先輩たちが残された財産を使って公益事業ができてから……。いったん解散して新法人になったので、解散時の財産は全てこれまで行ってきた事業を引き継いで消費しなければならないことを国と約束している。法人改革の時、公益法人になることをあきらめ、公益性を持った一般社団法人に移行した。いつか機が熟したら、公益認定を受けるという約束で。

今も全ての問題をクリアしているわけではないし、公益になるには改めて事業の公益性が問われることになるでしょう。現状でも煩雑な事務作業を、毎年続けられる体制を整えることが何よりも必要とされていると思う。17年間の移行期間を大切に継続事業が続けられることを願って、この先も見守ることができればと思っています。

● ご自身について、これから何をなさりたいですか？

いつも今求められていることをする……という人生だったから、特にこれから何をしたいかは余り考えていない。過去を振り返らない、今もそうだが常に目の前にある課題に取り組み続けて人生の大半、夏も秋も過ごしてきたように思う。だから、冬の季節を目前にして、今はこれまでの教育や研究、諸々の活動の記録をまとめ、振り返ってみたいと思う。

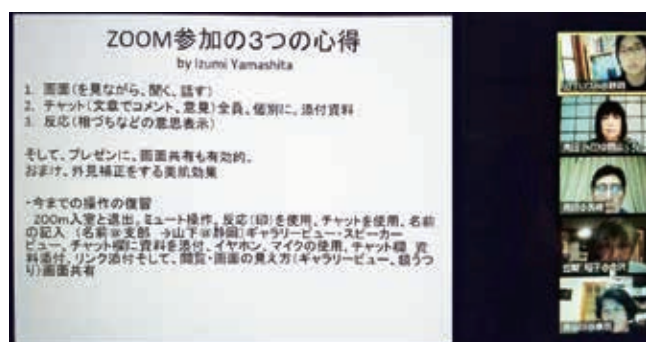
全国支部長オンライン勉強会について

支部担当理事 山下いづみ

オンラインで全国支部長会開催を念頭において、オンライン勉強会を開きました。8月に毎回30分程の勉強会を6回開き、都合のよい時に参加をしていただくようにしました。16支部の支部長が参加くださいました。(札幌、新潟、仙台、茨城、東京、神奈川、静岡、愛知、福井、金沢、京都、奈良、神戸、岡山、熊本、長崎)

オンライン操作体験のある方、ない方と様々で、私もいくらかりの体験しかない初心者でありながら、オンライン勉強会を企画し、ホストをやりました。とはいえ、初心者でも最低これらの操作ができれば、オンライン会議に困ることはないだろうと考える機能①画面(を見ながら、聞く、話すこと)②チャット(文章でコメントする)全員へ、また、個別に。添付資料の利用③反応の使い方(相づちなどの意思表示)に加え、10個程の操作を紹介しました。

勉強会では参加の皆さんの好奇心と協調性に助けられ、楽しく楽しい勉強会でした。



活動への参加の広がりを感じて 札幌支部長 堀内満智子

コロナ蔓延の7月下旬、教育関係説明会が突然Zoom参加に変更。独学し、何とか説明会に参加できましたが失敗ばかり。こんな時、8月上旬、支部長 Zoom 勉強会があり、6回中5回、ホスト勉強会1回に参加させていただきました。事前の連絡・勉強会・フォローアップを含めると、実に10回以上の充実した学習体験でした。Zoom勉強会では、様々な操作方法や、Zoom 初心者に対するホストとしての説明方法も学びました。対面とは違った疑似対面で楽しさも発見しました。

他支部と同様、支部総会・役員会・俳句講座はほぼメール実施。「参加すると楽しく、さらに何か得るものがある」をモットーとする支部活動(例会や英会話などの講座)は休止状態。今回の勉強会で、「対面開催が難しければ、Zoomもあり」と感じました。

札幌支部 Zoom アンケート(回収数12/18)では、体験無5名(体験希望2名)・体験有7名(会議体験有5名)でした。今回の勉強会での経験を生かして、今度は支部でのZoom勉強会を企画中。でも、すごく難しい。山下理事の努力と熱意に頭がさがりました。各支部の Zoom 活動が活発になれば、大学女性協会の活動への参加も広がると感じています。

「習うより慣れろ」

会長 加納孝代

二月はまだ種々の行事や会合が予定通り行われていました。しかし三月に入ると軒並みキャンセル続きとなりました。すべてコロナ感染症の流行を恐れての措置でした。

四月に入った頃、私が個人的に関係しているあるグループの会合が「ズーム」で行われました。それ以降は各種勉強会が「雪崩を打つように」ズーム開催となっていきました。むろん初めは難しく感じました。でも「習うより慣れろ」「滞空時間の問題だ」と励まされ、ついてゆきました。

大学女性協会でも年に一度の全国総会が五月下旬に名古屋で開かれる予定で、支部長会の時間も場もその中にとつてありました。でもすべてが取りやめと決まったので、「今年は支部長会はだめか」と内心思わなくもなかったのです。そこへ、あのとくに暑かった夏の盛りの八月に、支部担当理事のお一人、山下いづみさんの呼びかけで、六回にもわたるズームの勉強会が実現したのでした。

私は二回だけ参加しましたが、山下さんのリードはとてもお上手でした。支部長さんたちもみな、楽しそうにそこに集っておられました。笑顔があり、生き生きとした声があり、呼びかけと答えがありました。多くが私には初対面の方でしたが、「オンライン」上でも「仲間」という感覚を持つことができると実感できた得難い体験でした。人と人がつながる可能性はいろいろと開かれている、最初の一步を踏み出してみませんか、とお勧めしたくなりました。

Zoom 勉強会に参加して

新潟支部長 田代信子

支部総会も書面決議になり、例会や行事も中止を決め、役員会も参集しにくい状況の時に山下理事よりZoom勉強会のご案内を頂きました。世間では仕事や文化活動のオンライン化のスピードが増している中で、支部活動にもオンラインを取り入れたいなあと考えていた時でした。勉強会に参加して初めて繋がった時は、遠く離れた方々の表情が見えることに感動しました。

チャット、画面共有など便利な使い方を順番に教えて頂き、オンラインに不安だった気持ちが前向きに変わっていききました。その後支部でホスト役を引き受けてくれる役員会の協力を得て Zoom 役員会が実現しました。1回目は繋がりにくいことも生じましたが、オンラインの便利さを体感できたことと思います。役員の間ではZoomは使っていけそうですが、ネットに慣れていない高齢会員のサポートも考えなければならぬところです。

リアルでの代えがたい感動も忘れずに、対面とオンラインを自由に使って活動が活発になっていくことを願っています。参加が困難な会員にとっても、良い手段になるのではと期待しています。そのためにはオンラインのスキルを伸ばしていく必要を感じます。

最後になりましたが、山下理事より丁寧に教えて頂き、お礼申し上げます。ありがとうございました。

コロナ禍の JAUW 会員の皆様へ 会長 加納孝代

新型コロナウイルスの流行が懸念されたこの春、事務所で二人いるパートタイム職員の欠勤に直面しました。出勤に使う交通機関の中でのウイルス感染リスクを避けたいという理由でした。学校も大半は休校、商店も食堂も休業、政府も厳しく「不要不急の外出はするな」と言っていた時期なので当然です。でも事務所に来るメールや郵便物やファックスが心配なので、正副会長や会計担当理事は「不要不急」とは何だろう、大学女性協会のやっていることは「不要不急」なのかと自問しつつ、交代で事務所に出ました。

その頃「リモート」「在宅テレワーク」「オンライン」などの言葉も盛んにメディア上に現れました。でも考えてみれば本協会で私たちが普段からやっていたのはまさに「在宅テレワーク」でした。全員自前のPCを使い、昼間のみならず夕食後の時間帯、時には真夜中過ぎまでメールが行きかう私たちの仕事は、なんと勤勉な「在宅テレワーク」だったことか。その意味では今後も私たちの仕事はコロナ禍に関係なく進められるということが分かりました。

というわけで今私たちは、大学女性協会の本来の仕事とは何なのだろうと思いを深めつつ、それに取り組める日の到来を待っているところなのではないでしょうか。

委員会からのお知らせと報告

収益事業委員会

〈観劇〉～チケットの申し込みは事務所まで～
12月14日(月) 文楽 於国立小劇場「桂川連理榊」
開演：16：30 1等席 4,500円 定員10名
2021年1月9日(土) 雅楽 於サントリー大ホール
開演14：00 S席6,000円

文化事業委員会

12月2日(水) 天満敦子バイオリンコンサート
於 ハクジュホール 開演14：30 4,000円

生涯学習委員会

11月17日(火) 第8回Jカフェ開催(終了しました)
『アフガニスタンで見たこと考えたこと』中道貞子会員

理事会から

- ▶ 2021年度全国総会は5月23日(日)、東京にて本部を中心に開催することを予定しています。
- ▶ コロナ禍の中、シンポジウム、支部長会(11/15)、第8回Jカフェが対面式とZoom併用で開催されました。
- ▶ 今年も丸大食品のカatalogを同封いたします。皆様のご協力をお願いいたします。



【HA-104】

【HA-102】

〈丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます〉
お歳暮・お中元時期のほか、記念品・新築祝・開店祝
御礼・内祝・快気祝・各種景品等ご利用下さい。

丸大食品株式会社 首都圏特販課 担当:橋本
〒135-0051 東京都江東区枝川2-23-2
TEL03(3647)3270 FAX03(3647)3274

GWI、リモートで甦る結束力 鈴木千鶴子 CIR

JAUWが1954年以来加盟するGWIは、昨年の創立100周年記念総会以降、新理事体制の下すべての会員に資する活動を積極的に企画し、健全な運営に努めている。それは主にインターネットを活用したもので、私たちJAUWのHPに国際ネットワーク委員が翻訳し毎月掲載する隔週のニュースをはじめ、GWIのHP (<http://graduatewomen.org/>)の不断の更新に象徴されている。さらにリンクするSNSは4種類、特にFacebookは「いいね」獲得5120件と人気高く、連日新たな投稿で世界へアピールし続けている。

とりわけ、2020年のコロナパンデミックの中で始まったGWI史上初というZoom(ウェブ会議アプリ)によるウェビナー・シリーズ“Connecting across Borders: Growth through Knowledge & Friendship”(国境を越えて繋がる一友好と学び合いで発展をー)は、現在のGWIならびに加盟団体の課題を見据えて解決を探る取り組みであった。初回(5/6)は「NFA間の共同事業」で始まり、最終回(6/25)は「全世代の会員参加」で締め括られ、まさに“国境と世代を超えた協働”が持続可能性のカギであると主張していた。

全7回(各1時間)のトピックは、ジェンダーとメディア・移民・芸術・性教育、そしてGWIの提唱活動で構成され、夫々の分野の理事のプレゼンを軸に、各回25名～50名の世界各地からの参加者たちが最後に意見を出し合った。

最終回ならびに10月のユースのウェビナーの参加者で何えるように、高齢化が先行したヨーロッパでは既に次世代の若手の育成が軌道に乗っている。私たちが若手を惹きつけるJAUWを目指して、頑張りたい。

創立70周年記念募金の当期間中の報告と引続きのお願い

2020年7月1日～10月31日 寄付人数2名 寄付金額¥14,000

寄付者ご芳名(敬称略)：(東京支部) 内野雅子
(東京支部) 富樫絢子

寄付者総延べ人数 667名、寄付総額 10,082,313円

ご寄付をご納入いただき心から感謝申し上げます。引き続きまして以下の口座宛てによるしくようお願い申し上げます。

- 郵便払込/振替 00130-0-587701
加入者名：一般社団法人 大学女性協会
- ゆうちょ銀行 店名 ○一九(ゼロイチキョウ)
店番 019 当座 0587701

新入会員 理事会承認 2020年7月～10月

札幌支部 押谷 君子 東京支部 宮下 摩維子
大阪支部 小阪田 泰子 神戸支部 Kei Foran
岡山支部 竹宮 ゆき子 岡山支部 中原 淑子

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101
電話 03-3358-2882 FAX 03-3358-2889
<http://www.jauw.org> E-mail:jauw@jauw.org
発行人 加納 孝代 編集責任者 穂田 信子
発行日 2020年11月30日